医療人類学入門ゼミ：コロナ禍と出会い直す

科目責任者：松　岡　佐　知（国際協力・支援センター）

Ⅰ．前　　文

この社会に生きる私たち全ての人が当事者となり，直に経験したコロナ禍を人類学というレンズを通して，みんなで考えます。パンデミックは医療だけなく，社会・経済，私たちの足元にある暮らしにまで影響を与えました。私たちが感じた恐怖，不安，もどかしさや憤りを手がかりに，朝日新聞に連載されていた医療人類学者の論考を輪読します。

Ⅱ．受入可能人数

最大10名程度

Ⅲ．担当教員

松　岡　佐　知（国際協力・支援センター）

Ⅳ．学習内容

医療人類学者である磯野真穂さんが著した『コロナ禍と出会い直す：不要不急の人類学ノート』（柏書房）を輪読し，議論を深めることで，医学的アプローチとは異なる医療についての考え方・ものの見方を体得することを目指します。同時に医学的な考え方を相対化し，医学的なアプローチにはどのような特徴があるのか客観的な理解を深めることを目的としています。

コロナ禍は医療だけなく，政治，経済，学校生活，家族関係など，私たちの暮らしの足元にまで影響を及ぼしました。どのように行動するのが最適であるか，その判断に悩んだこともあると思います。その意味で，私たちすべての人がその災禍の当事者であり，医療について多義的に考える格好の材料となります。今後，同様の災禍が発生する可能性はあり，この経験を学びに変えることは非常に重要です。

講義ついてはゼミ形式として，各章ごとに担当者を決め，文献の要点や自分の意見，疑問点について発表してもらいます。その後に，出席者全員で意見交換をし，議論を深めます。講義の時間中に文献を読む時間をとりますが，時間が限定的であるため，事前に文献を読む時間（30分～１時間程度）が必要です。

Ⅴ．学修の到達目標

・社会科学的な着眼点，多角的なものの捉え方を身につける。
・医学的な思考の特徴について客観的に理解する。
・医療の多義性について理解する。
・自分にとっての「常識」や「正しさ」がどのように構築されてきたかについて考える。
・状況に応じて自分の思考を更新できる柔軟な思考力を養う。
・明瞭な正答のない課題について，学術的に思考し，言語で説明する力を養う。

Ⅵ．成績評価の方法・基準

ゼミにおける発表内容（50％），および議論への参加態度（50％）によって総合的に評価をします。

Ⅶ．教科書・参考図書・ＡＶ資料

磯野真穂『コロナ禍と出会い直す：不要不急の人類学ノート』柏書房（税込1980円）を購入する必要があります。その他，人類学に関する資料は適宜配布します。

Ⅷ．質問への対応方法

基本的にメール（s-matsuoka391@dokkyomed.ac.jp）で受け付けます。

Ⅸ．求められる事前学習，事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：輪読文献の予習（30分から１時間），担当回についてはさらにレジュメの作成（30分）。

事後学習：輪読した文献の再読（30分から１時間）。

Ⅹ．コアカリ記号・番号

PR-02-02-01 自身の想像力の限界を認識した上で，他者を理解することに努める。

PR-02-02-02 他者を適切に理解するための妨げとなる自分や自集団の偏見とはどのようなものか考え，意識して行動する。

PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。

PR-03-01-02 答えのない問いについて考え続ける。

GE-01-02-01 身体・心理・社会の問題を統合したアプローチを理解している。

GE-01-03-02 患者の社会的背景（経済的・制度的側面等）が病いに及ぼす影響を理解している。

GE-02-01-02 患者の所属する地域や文化的な背景が健康に関連することを理解している。

GE-04-02-03 文化人類学・社会学（主に医療人類学・医療社会学）の理論や概念を用いて，患者の判断や行動に関わる諸事象を説明できる。

Ⅺ．課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

LMS（学習管理システム）を通じて実施します。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎